

わとく地域支援センターだより

兵庫県立和田山特別支援学校
朝来市和田山町竹田1987-1
TEL.079-674-0214

忙しい日々の中で、子どもの行動上の問題（問題行動）が目立つ…どうしたらいいかわからなくて
つつい口うるさく言ってしまう…。または、対処方法が分からないから、とりあえず目をつぶって
しまっている…。そんな時に、指導の参考にできる一つの方法として ABA（応用行動分析） を紹介
します。ABAとは、行動を見つめ、支援を考える方法です。

行動上の問題の原因を個人のせいとして捉えるのではなく、行動の背景にある理由や環境による
要因を見つめ、アプローチします。

文：小学部 玉木明音



はじめに、行動の理由や要因を考える際に便利な ABC フレームを紹介します。ABC フレームとは、

A=Antecedent（先行事象）

B=Behavior（行動）

C=Consequence（後続事象）

という、英語の頭文字からとったもので B（行動）の前（先行事象）と
後（後続事象）に注目して行動の理由や要因を考えるためのものです。

（例① →赤ちゃんが、【泣いた】という行動に着目）



☆泣いたらどうなった？→ミルクがもらえた

（例②→【友達を叩いた】という行動に着目）



☆叩いたらどうなった？→先生に注意された

このように、着目したい行動（B）の直前の先行事例（A）を観察することで、行動の理由や原因に気づける
ことがあります。行動の理由や原因は『行動の機能』と呼ばれており、行動の機能には以下の4つがあります。

- ① 要求…〇〇が欲しい!〇〇がしたい!などの、要求をかなえるため。
- ② 逃避…苦手な活動をせずにいるため。
- ③ 注目…周囲の人から注目されたり、関わってもらったりするため。
- ④ 感覚…自分にとって心地よかったり、落ち着けたりする刺激を受けるため。

では、次に行動の分析がどのように教育活動に活用できるか紹介したいと思います。
ABA には、行動の強化・弱化という考え方があります。『強化』とはその行動の頻度が増えること、『弱化』とはその行動の頻度が減ることを意味します。先述を例に、行動が強化されるか弱化されるかを見てみます。



例①では、
『泣く』という行動の結果、『ミルクがもらえる』ことになり、『おなかがすいた』という不快な状態が改善しています。このことから、『泣く』→『ミルクがもらえる』と学習し、おなかがすいたら泣くという行動の頻度が増えることが予想されます。これが強化です。



例②では、
『友達を叩く』という行動の結果、『先生に注意される』という嫌なことが起こっています。このことから『お友達を叩く』→『先生に注意される』と学習し、叩くという行動の頻度は減少することが予想されます。これが弱化です。

『お友達を叩く』と『先生に叱られる』という嫌なことが起こるから、確かに『叩く』という行動は弱化されて行動の頻度は減ります。しかし、弱化には、以下のようなリスクがあります。

- ・弱化の効果は一時的!
- ・弱化をする人(=注意する先生)から隠れて不適切な行動を行うようになる。
- ・弱化によって怒りや落ち込みなどの感情が生じることがある。
- ・弱化をし続けると、慣れてより強い方法での弱化が必要になる。(強い叱責、体罰につながるリスクが上がる)
- ・『不適切な行動』を学ぶことはできるが、『適切な行動』を学ぶことはできない。



そこで、問題行動を置き換える手法(分化強化)が有効です。分化強化とは、不適切な行動の代わりとなる『より適応的な行動』を強化することによって、結果的に不適切な行動の減少につなげる4つの方法を紹介します。

- ① 他行動分化強化 …不適切な行動以外の適切な行動を強化することで間接的に不適切な行動を減らす。
例: 普段通り落ち着いて生活していることをほめる。
- ② 代替行動分化強化…不適切な行動の代わりとなる行動を決めその行動を強化する。
例: 腹が立った時に友達をたたくのではなく、言葉で伝え、伝えられたらほめる。
- ③ 対立行動分化強化…不適切な行動と物理的に両立不可能な行動を強化する方法。
例: 叩きそうになったら、教師と手つなぎをする。
- ④ 低頻度行動分化強化…不適切な行動が起こる回数や頻度を決め、より適切なレベルまで行動の頻度を減らす。
例: 授業中のおしゃべりは5回までというルールを作る。

これらの方法を活用しながら、望ましい行動を増加させ、児童生徒の well-being へとつなげることが大切です。

参考・引用資料

但馬 ABA 学習会資料 松本茂樹

施設職員 ABA 支援入門 村本浄司

応用行動分析入門ハンドブック 三田真実・岡村章司 井上雅彦

行動障害支援に役立つアイデア集 志賀利一 林大輔

ご質問・教育相談は、

わとく地域支援センター TEL:079-674-0214

Mail:wadayama-sn-su@hyogo-c.ed.jp

兵庫県朝来市和田山町竹田1987-1

兵庫県立和田山特別支援学校 担当:小倉弘貴